

令和6年度 熊谷恒子記念館

かなの美展「熊谷恒子がたどる近代短歌 正岡子規や長塚節を通じて」の開催について

■ 展覧会内容

熊谷恒子記念館では、再開後二回目のかなの美展を開催します。本展では、正岡子規（1867～1902）や長塚節（1879～1915）の短歌を通じて、書家・熊谷恒子（1893～1986）が近代短歌を追想したかな書を紹介し、近代短歌は、明治期に自由と個性を求め、従来の和歌を改良しようと正岡らにより取り組まれました。愛媛県出身の正岡は、1898年に「歌よみに与ふる書」を連載して短歌革新に着手し、根岸短歌会を結成した人物です。子規庵で開かれた歌会を源流とした根岸短歌会には、伊藤左千夫（1864～1913）や長塚節らも参加しました。正岡の没後、伊藤が根岸短歌会をまとめアララギ派へと発展させ、正岡の短歌論により近代歌人に影響を与えました。

恒子は、1959年に《秋の夜を》を発表するなど、近代短歌を好んで制作しました。恒子の《秋の夜を》は、伊藤左千夫らによって編集された正岡子規の遺稿『竹乃里歌』を題材としています。近代短歌の中でも、とくに恒子は、長塚節が詠んだ短歌を選んで作品を多く制作しました。1962年の第五回日展に恒子が発表した《秋のそら》は、正岡のもとで学んだ長塚が栃木県・鬼怒川のほとりで秋のたそがれを詠った短歌が示されています。また、恒子の《冬ぼたん》（1966年）は、伊藤が正岡に出会って間もなくして詠んだ短歌で、霜枯の垣根に咲く冬牡丹の様子が表現されています。その他に、恒子の《よひあさく》（1961年）は、師であった伊藤の逝去後に、雨蛙の鳴く情景を表した斎藤茂吉（1882～1953）の短歌をもとにしています。

戦後、書道展覧会が活発に開催されるようになり、新たな書表現が誕生しました。このような中でも、古典を研究した恒子は、近代短歌をたどりながら、優美かな書の作品を作り続けました。時代に沿って書の表現が変化する中、古典を尊重しつつ、新たな題材に取り組むなど独自のかな書を追究した恒子の作品をお楽しみください。

■ 会期

2024年12月21日（土）～2025年4月6日（日）

休館日：月曜日（月曜が祝日の場合は、その翌日が休館）及び年末年始（12月29日（日）～1月3日（金））

開館時間：9：00～16：30（入館は16：00まで）

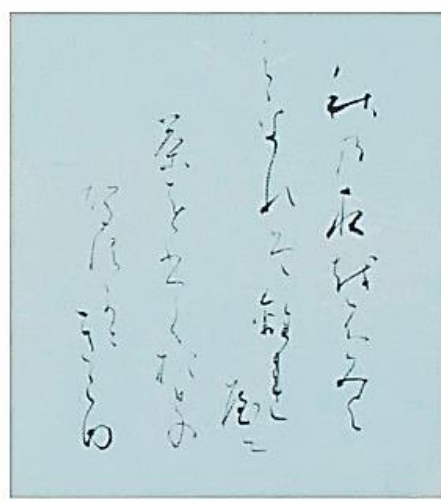
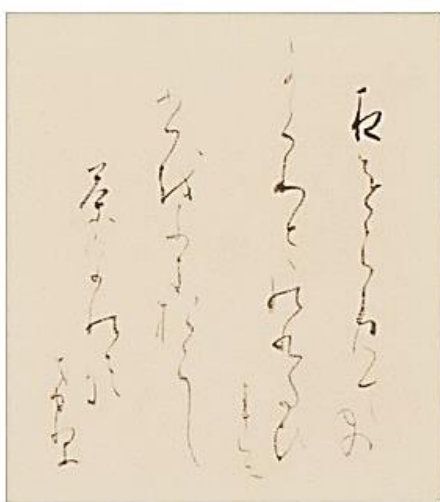
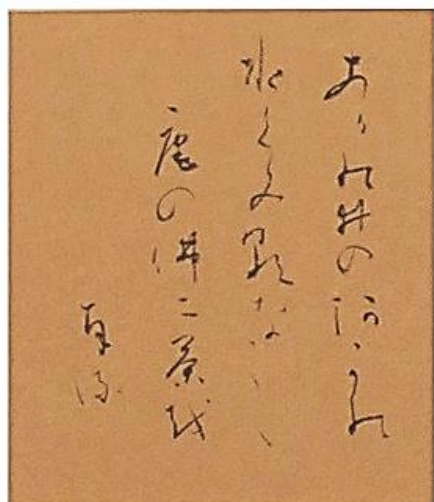
入館料：一般100円、中学生以下50円

※65歳以上（要証明）と未就学児及び障がい者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は無料

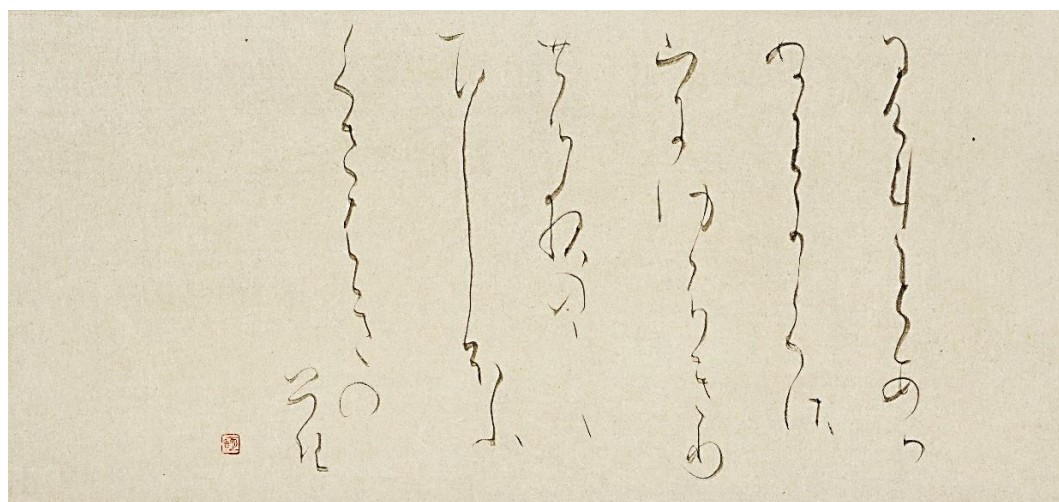
■ 会場

大田区立熊谷恒子記念館 大田区南馬込 4-5-15 （交通案内は3ページをご覧ください。）

■主な出品作品



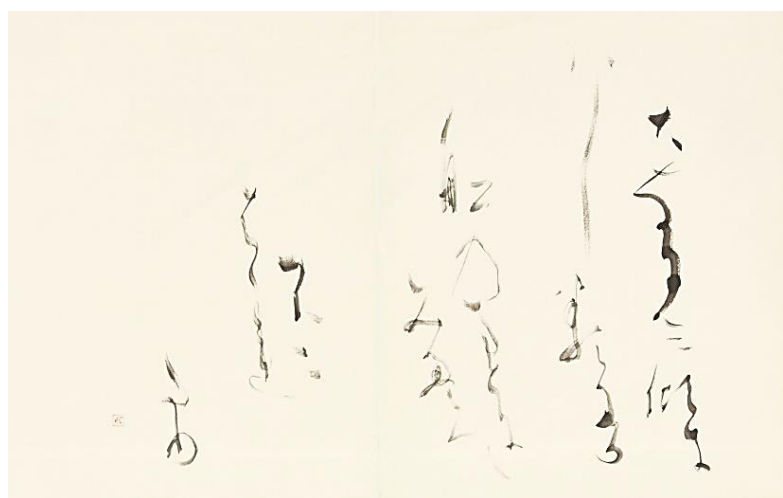
熊谷恒子《秋の夜を（正岡子規）》、1959年
大田区立熊谷恒子記念館所蔵



熊谷恒子《見れどあかぬ（長塚節）》、1954年
大田区立熊谷恒子記念館所蔵



熊谷恒子《冬ぼたん（伊藤左千夫）》1966年
大田区立熊谷恒子記念館所蔵



熊谷恒子《大なみに（若山牧水）》1966年
大田区立熊谷恒子記念館所蔵

■関連イベント

○ギャラリートーク

2025年1月25日(土)、2月22日(土)、3月15日(土)

各日 11:00 および 13:00、参加費無料（入館料のみ）、事前申込みが必要です。

※ギャラリートークの詳細は、当館ホームページまたは熊谷恒子記念館（03-3773-0123）へお電話にてご確認ください。

○第3回記念館講座「熊谷恒子と二人の師 尾上柴舟・岡山高蔭」

開催日時：2025年2月15日（土） 14:00～15:30

会場：大田文化の森 多目的室（大田区中央 2-10-1）

参加費：無料

定員：50名（定員を超えた場合は、抽選）

締切：2025年1月31日（金）必着

申込方法：往復はがきかFAXに郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号、希望人数（2名様まで）、講座名を明記のうえ、下記お問合せ先へお送りください。

※返信用はがきには、代表の方の住所と氏名をご記入ください。

※FAXの方は返信可能なFAX番号でお申込みください。

■広報についてのお問合せ

本展をご紹介いただける場合にかぎり、作品画像をご利用いただけます。作品画像の使用に関しては、下記までお問い合わせください。

※作品画像のほか当館の外観の画像もご用意しております。

※使用に際しては、掲載内容・放映内容を事前に確認させていただきます。

※使用后、掲載誌および放映が記録されたメディアを見本として当館までご送付ください。

<お問合せ先>

大田区立熊谷恒子記念館 担当学芸員 飯島

〒143-0024 大田区中央 4-2-1 TEL&FAX 03-3772-0680（大田区立龍子記念館内）

■交通

○JR京浜東北線 大森駅西口から

東急バス4番「荏原町駅入口」行乗車「万福寺前」下車、徒歩5分

○都営地下鉄浅草線 西馬込駅南口から

南馬込桜並木通り（桜のプロムナード）に沿って徒歩10分

